

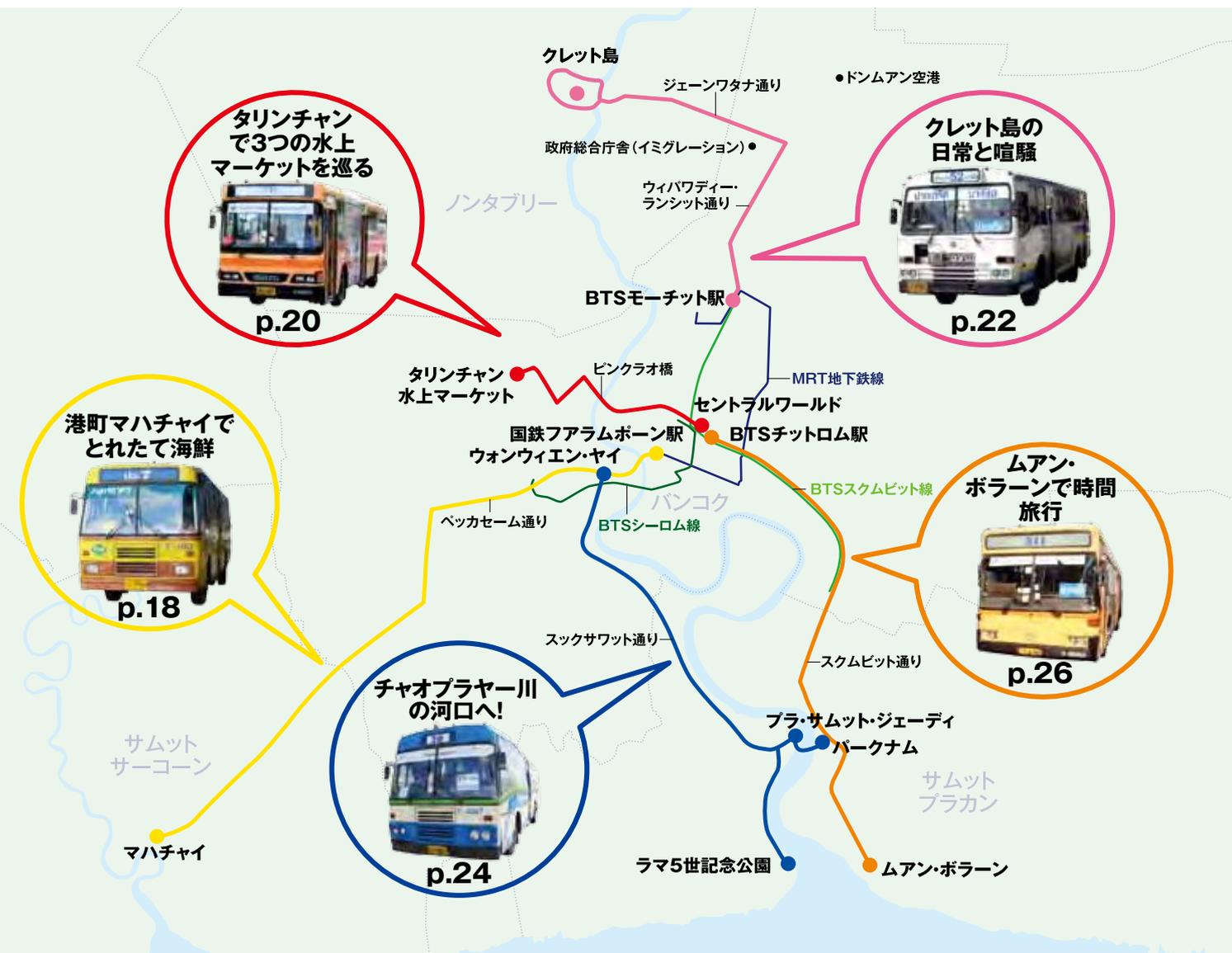
意外と簡単、しかも格安!

ぶらり路線バスの旅

バンコク都民の心強い味方・路線バス。その価格は20Bを超えることはまずなく、路線網は蜘蛛の巣のようにバンコク全域をカバーし、路線によっては24時間運行している。

今回はその路線バスを駆使して、バンコク近郊の見どころ5カ所へ遊びに行ってみた。不況時の行楽は「安・近・短」が喜ばれるというが、まさにそれを体現した旅となった。皆さんもこの週末、ぶらりと出かけてみては?

データ特集記事 第386弾
取材・文・写真／ダコ編集部



風の吹くツバメ寺に鉄道の旅も! 港町マハチャイで とれたて海鮮

路線バスに揺られること2時間と少し。バンコク西隣のサムットサーコーン県にある港町マハチャイにはカニやエビ、イカ、貝、魚など新鮮な魚介類がわんさか並ぶ。そして、ター・ジーン川を渡った対岸、風が吹き抜けるツバメ寺にてタイ湾からの海風が感じられる旅へとご案内。(編集U)



国鉄フアラムポーン駅から出発! 都会とローカルの分岐点

集合時間から40分、20分間隔で運行するはずのバスが遅れてやってきた。車掌のおばちゃんに「マハチャイ市場まで!」と声を掛け、料金19Bを支払う。出だしはイマイチだったが、こうして港町マハチャイへのワンデートリップが始まった。

マハチャイ市場へは、国鉄フアラムポーン駅西側のバス停から出発する7番エアコンバス1本で行ける。ヤワラート通りを抜け、プラボッククラオ橋でチャオプラブラー川を渡る。ウォンウィエン・ヤイのロータリーをぐるっと回って入ったベッカセム通りは、大型のショッピングモールが立ち並び、大都市バンコクの雰囲気だが、エカチャイ通りへと向かうソイ69へ入った途端に風景は一変、郊外の下町風情が漂ってきた。

川と線路に挟まれた マハチャイ市場

市場への最寄りのバス停は、サムットサーコーン警察署のある交差点。右手に見える中国寺院兼ボランティア団体「龍徳善堂」が目印だ。そこからは、県庁や大学もある主要道路のセタキット1通りを歩いて5分ほど。徐々に増えていく露店を横目に、だんだん気持ちが高揚してきた。

ソイ・スカピパンの入り口から白い仏塔のあるワット・マイまでの約300mが「マハチャイ市場」だ。渡りガニやマッドクラブ、川エビ、灰貝やムール貝、各種イカに、プラートゥー(グルクマ)をはじめとする魚たち。マハチャイ港で揚がった魚介がところ狭しと並び、活気のある雰囲気は、眺めているだけでワクワクする。

メインの通りから、露店が並ぶ細い路地に入っていくと、突き当たりに現れたのは国鉄車両。マハチャイ駅がそばにあるのは知っていたが、市場の一部のように現れる列車には、やはりびっくり。ソイ・スカピパンを挟んで駅と反対側へ進むと、目の前にター・ジーン川が広がっていた。

目指すは対岸のシーフード食堂! フェリーに乗って ター・ジーン川を渡る

ひと通り市場散策を終え、川の対岸の食堂に向かう。バイクも乗れるフェリーで川を渡った先、ター・チャローム船着場のアーケードを抜けるとサムロー・ティープ(足踏み三輪タクシー)の待機場所がある。バイクタクシーよりも料金は高いが、旅情に浸るにはもってこい、と乗り込む。10分ほどで到着したのがター・ジーン川そばのシーフード食堂「クルア・チャオ・サムット」だ。

創業40年のこちら、マハチャイ港に揚がる魚介類を使った料理を提供する。店主おすすめの

「プラー・ガボン・トート・サムンプライ(スズキの香草揚げ)」は、天然のスズキをレモンガラスやスイートバジル、カシューナッツと一緒に揚げたもの。真っ赤なピリ辛ソースが香草の香りを引き立てさわやかな味わいだ。もう一品の「グントート・グルア(エビの塩揚げ)」は、頭から丸ごとばくっと食べられる。エビの甘さが感じられ、うまい!

壁を埋め尽くすツバメの巣 風の寺「ワット・チョンロム」

お腹がいっぱいになったところで、目と鼻の先のワット・チョンロムに向かった。ター・ジーン川がタイ湾へと流れていく様子も見られるこちらはアナタヤ時代から続く古いお寺で、1965年に王室寺

院に認定された際に「ワット・スッティ・ワー・タワラーラーム」へと名前が変わった。ただし、今でも地元の人たちにはワット・チョンロムの名のまま親しまれている。本堂に座っていると、名前のとおり「チョンロム」=風の通り口)吹き抜ける風が心地よかった。

このお寺、実は礼拝堂に住む多くのツバメで有名なのだ。ほかの建物にはまったくないのに、礼拝堂には1000羽以上のツバメが巣を作る。約40年前、当時の住職になつたツバメが居付き、その数がどんどん増えていったのだとか。

目の前に迫る車窓の景色 締めは国鉄列車の旅

ワット・チョンロムから見た大きな観音さま(観世音菩薩)に寄ってみた。高さ約10mの巨大な観音さまの台座の中に、金色に輝く観音さまがおまします。周りにはお経(?)の書かれた鐘が108つ。ぐるぐる回しながら「煩惱よ〜、立ち去れ〜」。

近くにいたバイクタクシーで船着場へ。川を渡って国鉄マハチャイ線に乗り込んだ。ウォンウィエン・ヤイ駅までは10B。住宅や商店などが目の前を走り抜けていき、バスとはまた違った距離感の眺めが楽しい。

バンコク中心部へ向かうタクシーの中で数えあげる。路線バスにフェリー、サムロー・ティープ、バイク、国鉄列車、今日はいろんな乗り物に乗ったな〜、と満足感とともに気持ちのよい疲れに身を委ねる帰路だった。

行き方	タイムテーブル	周辺地図
1.国鉄フアラムポーン駅 — マハチャイ市場 7番の黄色バス(エアコン付き) 時 5時~22時 20分間隔で運行 料 19B	08:50 国鉄フアラムポーン駅に集合 09:32 7番黄色バスに乗って出発 11:42 マハチャイ市場到着&散策 12:49 フェリーで川を渡り、サムロー・ティープでお食事どころへ 13:10 食事 14:28 隣のワット・チョンロムへ 15:15 歩いて観世音菩薩 15:52 バイク・タクシーで船着場まで 16:24 フェリーで川を渡り、国鉄マハチャイ駅到着 17:39 国鉄ウォンウィエン・ヤイ駅到着、タクシーでバンコク中心部へ	
2.マハチャイ市場(ターサバーン船着場) — ター・チャローム船着場 フェリー 時 24時間 満員になり次第出発 料 3B、バイク6B	3.ター・チャローム船着場 — ワット・チョンロム サムロー・ティープ(足踏み三輪タクシー) 時 3時~22時 料 30B/ひとり、40B/ふたり	
4.観世音菩薩 — ター・チャローム バイクタクシー 時 5時~22時 料 20B	4.国鉄マハチャイ駅 — ウォンウィエン・ヤイ駅 列車 時 4時半~19時 30分~1時間半間隔で運行 料 普通席10B、エアコン席25B、タイ人無料	
見どころ 1 マハチャイ市場 (タラート・マハチャイ) ตลาดมหาชัย 場 Soi Sukhaphiban, Sethakit 1 Rd., Mahachai, Muang, Samutsakorn 時 6時~19時 無休	見どころ 2 ワット・チョンロム(ワット・スッティ・ワー・タワラーラーム) วัดช่องลม (วัดสุทธิวาตวราราม) 場 Tha Chalom, Muang, Samutsakorn 電 0-3475-1890 時 5時~19時 無休 料 入場無料	見どころ 3 観世音菩薩(ウッタヤーン・プラー・ポーティサット・グワンイム) อุทยานพระโพธิสัตว์กวนอิม 場 Tha Chalom, Muang, Samutsakorn 電 0-3449-7681 時 5時~20時 無休 料 入場無料
		食事どころ クルア・チャオ・サムット ครัวชาวสมุทร 場 816/2 Tha Chalom, Muang, Samutsakorn 電 08-1014-6306 時 8時~18時半 無休 料 プラー・ガボン・トート・サムンプライ280B、グントート・グルア300B、カニチャーハン(大)150B

昔ながらの運河沿いの生活 3つの水上マーケットを 巡るツアー

昔、バンコクには運河が網の目のように広がっていたが、今ではその多くが埋め立てられ道路に変わった。そんな中、トンブリーエリアでは今でも運河が住民たちの交通路として活用されている。今回、昔ながらのバンコクの運河生活を垣間見ることができるタリンチャンへの旅に出発！（編集U）

乗るバスはこちら！
79番オレンジ色バス
(エアコン付き)



ラットマヨム水上マーケット



運河で水遊びする子供たち



タリンチャン船着場と長尾舟



ツアーには英語とタイ語を話すガイド付き



週末の旧市街を通り 一路、水上マーケットへ

今回の旅の目的地は、昔ながらの運河沿いの生活の様子が体感できる「タリンチャン水上マーケット」。午前9時にセントラルワールド前にあるバス停から79番のオレンジ色バスに乗って出発した。

民主記念塔周辺にまだデモ隊が陣取っていたこともあり、バスは王宮方面へと迂回するルートを取っていた。車窓から見える旧市街の人々は、いつものんびりに見えた。下町の、週末の朝のけだるい感じは、けっこう好きだ。ピンクラオ橋を渡って10分後、片道1車線のチャックブラ通りへと曲がる。突き当たり、三叉路に正面に見えるタリンチャン区役所の看板が降りる際の目印だ。

バスから降りた途端、ダコのタイ人スタッフの焦った声が聞こえた。「ツアーの出発時間が迫っています！ 急いで〜」。

低い目線の長尾舟に乗って 運河沿いの生活を見上げる

運河沿いの生活が見られるのは、タリンチャン水上マーケット発の「3つの水上マーケットを巡るツアー」。1日1回しかないこのツアーだが、すでに開始時間の9時45分を数分過ぎている！ 諦め

半分、急いで船着場まで行くと、最後の呼び込みの最中で滑り込みセーフ！ よかった〜。

長尾舟(ルア・ハーン・ヤーオ)に乗り込むと水面までかなり近い。運河沿いには、家や寺、畑が立ち並び、通路なども作られている。低い位置からの眺めがおもしろい。手馴れた感じで手漕ぎボートを操るおばあちゃんとすれ違う。家の前、運河に面してポストがあるのを発見。今でも船で配達されるのか、昔使っていた名残だろうか？

幅の狭い運河なので曲がる時は乗客も一緒になって体重移動しなければならぬ。最初は戸惑うけれど、右へ左へと進む内に次第にほかの乗客と息が合ってくる。遊園地のアトラクションみたいで楽しい。

垂涎の水上マーケットと のんびりゆったり寺の市

最初の寄港地「ラットマヨム水上マーケット」に到着。ここでいったん降りて自由行動、40分後に出発となる。こちらの市場では運河に沿ってテーブルが並べられ、食事できるようになっている。カニ、エビ、貝、ナマズ、ティラピアなどの魚介類の焼いたものや、鶏肉や豚肉の炭火焼き、タイ菓子など食べ物がいっぱい。奥行きもあり、かなり広い。40分では、ひと通り見て回るだけで終わってしまう

ので、ここで食事するなら早めに店を決めてしまうのが得策だ。

次に寄ったのは「ワット・サバーン水上マーケット」。のんびりとした寺の市で、一応ボートに乗った売り子さんはいるものの、こじんまり。射的など、縁日遊びもあった。

再び、舟に乗って運河沿いの風景を楽しむ。水遊びする子供たちや、ボートで配達中の郵便局員に遭遇した。あのポストは現役だったのだ。途中、魚のえさやリスポットや、カオラム(竹に入ったもち米の菓子)を売る東屋に寄ったりしながら3時間のツアーは終了、船着場に到着する。

「あれ？ 3つの水上マーケットじゃないの？」とガイドに聞くと、にっこり笑って足元を指す。ここ(タリンチャン水上マーケット)も数に入っていたのね。

はしけ 鯉の上の食堂で お食事タイム！

ツアーが終わり、「お腹が空いた〜」と水上マーケット内、運河に浮かぶ鯉の食堂で食事を取ることになる。いくつもの店があり、専用のテーブルが並んでいる。調理は横付けされた船の上で行われている。他店の料理も注文でき、料理や飲み物が運ばれてきた時点で代金を支払うシステムだ。

この日行ったのは、海鮮炭火焼きの「ノン・

ヨー」。身が詰まって、カニ味噌たっぷりの「プー・バオ(カニの炭火焼き)」や、ハーブの香り豊かな「ホイ・マレンプー(蒸しムール貝)」、もちもちの麺の「パッタイ(タイ風焼きそば)」など、どれも良かった。ボートがそばを通ると若干上下に揺れるので、船上での食事気分も味わえる！

レトロな鉄橋、市場内散策 そして、帰路バンコク中心部へ

ついでにすぐツアーに参加したので、食後にじっくり市場内を散策した。タリンチャン水上マーケットはチャックブラ運河沿いにあるのだが、この運河はもともとはチャオプラヤー川の一部だったそう。水上交通が盛んだったアユタヤー時代に、曲がりくねるチャオプラヤー川に捷水路が掘られ、川だった部分が運河となった。

このエリアは果樹園が多く、市場でも近くで栽培されているリンチーや、マンゴー、バナナ、ファック・カーオ(ナンバンカラスウリ)、マナオなどの果物が多く売られる。そばには国鉄のレトロな鉄橋もあり、フォトジェニックな風景が広がっていた。

身も心も満足したところで帰路へ。朝方、バスを降りた三叉路のセブンイレブン前で待っていると79番オレンジ色バスがやってくる。それに乗って、セントラルワールドまで約50分だ。



ラットマヨム水上マーケット内の様子



ワット・サバーンの半オープンエアの礼拝堂



ボートに乗って手紙や小包を配達する郵便局の配達員



カニの炭火焼き、ムール貝、パッタイ



フォトジェニックな国鉄のレトロ鉄橋

行き方

1. セントラルワールド — タリンチャン水上マーケット
79番オレンジ色バス(エアコン付き)
開 4時半〜22時 約15〜20分間隔で運行 料 17B

タイムテーブル

08:55 セントラルワールド前集合
08:58 79番オレンジ色バス乗車
09:47 タリンチャン水上マーケット到着
09:54 水上ツアーの船に乗って、出発!
10:30 ラットマヨム水上マーケット散策
11:41 ワット・サバーン水上マーケット散策
13:00 タリンチャン到着でツアー終了
13:30 食事
13:57 水上マーケット散策
15:10 79番オレンジ色バス乗車
16:02 セントラルワールド着

見どころ

見どころ1 タリンチャン水上マーケット
ตลาดน้ำตลิ่งชัน

場 Chak Phra Rd.

電 08-1374-7616
時 土日祝のみ:8時〜17時
HP www.facebook.com/talingchanfloatingmarket
料 入場無料

見どころ2 3つの水上マーケットを巡るツアー
ทัวร์เที่ยว3ตลาด

場 タリンチャン水上マーケット内。船着場は鯉の手前を右手に行った奥にある
電 08-1374-7616, 08-1701-2565
時 9時45分(約3時間)
料 大人99B、子供60B
※英語・タイ語のガイド付き。途中の水上マーケットで長居したい場合、ガイドに言って途中下船することも可。その際、帰りのタクシーなどは自分で探さる必要あり

そのほかのツアー

蘭園見学ツアー
ทัวร์สวนกล้วยไม้
時 10時45分(約2.5時間)
料 大人99B、子供60B
運河周遊ツアー
ทัวร์รอบเกาะ
電 13時45分、14時45分(約1時間)
料 大人・子供60B
ボート・チャーター
料 1000B/時間(最大40人乗り※このサイズのボートのみ)

食事どころ

ノン・ヨー・アー・ハーン・タレー・バオ
น้ำจิ้ม อาหารทะเลเผา
場 タリンチャン水上マーケット内
時 土日祝のみ:7時〜17時
料 プー・バオ200B、ホイ・マレンプー40B、パッタイ40B

素焼きとお菓子の島でボートトリップ クレット島の 喧騒と日常

バンコクの北・ノンタブリー県の名所といえば、やはりクレット島だ。チャオブラヤー川にある巨大な中洲で、その大きさは東西2.5km、南北1.5km。素焼きやタイ菓子の店が並ぶ古い商店街がこの島の名物だが、まだまだ面白いスポットがあるらしい。(編集F)

乗るバスはこちら!
52番白orピンクバス
(エアコンなし)



停留所はこちら!



炎天下で開催されるタイ&モン族伝統舞踊ショー



ラン・パー・スン店内



ボートトリップ中にポップコーンとイカを売りに来た



広々としたウィ
パワディーラ
ンシット通り



最初の目的地はこの
メジャー・ハリウッド



クレット島全体図。全周は6km。自転車をレンタル(1日40B)し
て一周する人も多い



ノーエアコンは意外と暑くない

土曜の午前10時。BTSモーチット駅はウィークエンド・マーケットに向かう人でごった返していた。緑日のようにぎわいを横目に駅下のバス停で待つこと10分ほど。お目当ての52番バスがやって来た。すかさず乗り込んで、車掌に「メジャー・ハリウッド」と告げ、1人8Bなりを支払う。

ノーエアコンバスに乗るのは久しぶりだ。暑がりの僕は車内でだいぶやられることを覚悟していたが、いざバスが走り始めると、意外と風が心地よい。この52番バスは幅の広いウィパワディーラシット通りを走るためスピードが出て、その分多く風が吹き込んでくるのか。渋滞した街なかをタラタラ走るとは違う。

バイクと渡し船を乗り継ぐ クレット島到着

こうしてバスに揺られること35分、途中、デモ隊で政府総合庁舎前が封鎖されているのを迂回しながら「パーククレット五叉路」に到着。当初は1時間以上かかると予想していたが、意外と早かった。

52番のバスはこの五叉路を右に折れて北に向かうので、ここで下車して、進行方向の約130m先に建つシネコン「メジャー・ハリウッド」へ向かう。

このシネコンの手前で客待ちをしているバイクに「コ・クレット เกาะเกร็ด」と告げると、クレット島に渡る船着場まで乗せて行ってもらえる。1人20Bだ。バイクの代わりにタクシーでもいい。船着場のある「ワット・サナム・ヌア」に到着。人の流れに従って渡し船に乗ろう。1人2Bなり。

ほんの1分ほどでクレット島に到着した。まずは降りた船着場でボートトリップのチケットを買う。今回初めて知ったが、ここからクレット島を一週するツアーが出ているのだ。1人たったの60B。

14時発のチケットを購入し、ツアーまで島内を散策することにする。

雑貨と買い食いの街 クレット島北側

まずは船着場を出て右側の道へ。島の北側にあるこの通りがクレット島のメインとなる観光名所だ。狭い歩道の両側にずらっと古い木造家屋が建ち並び、お菓子や素焼き、土産物などを売っている。

まずはこの島の名物「トート・マン・プラー」(魚のすり身揚げ)を買って、つまみながら商店街をぶらぶら歩く。

商店街の中ほどで本日の昼食。「ティアオ・イン・ナム」というレトロモダンなクイティアオ食堂だ。川沿いの席に陣取って、川を眺めながら「バミートムヤム」(トムヤム味中華麺)をいただく。今回はピセートを頼んだのだが、具材の種類が多くて、ひと口ごとに違った食感や味が楽しめた。川沿いの景色を堪能した後、再び歩き出す。

商店街を抜けると「ワット・パイ・ローム」というお寺に行き着いた。このお寺の前では毎週土日の12時より無料のタイ&モン族伝統舞踊ショーをやっている(この日は12時半にスタート)。この島の名物、素焼きのカップに入ったコーラを飲みながら、タイ舞踊をしばし鑑賞。

島の静かな日常が見える クレット島東側

13時、暑さに耐えられなくなったので船着場へ戻る。ツアーの時間までまだ1時間近くあるので、今度は船着場を出て左側の道を散策してみた。島の東側は観光客が少なく、道の両側にも民家が並んでいる。島の日常の光景を眺められる。

細い道を歩いていると古い木造家屋を使った店を発見! 「ラン・パー・スン」というタイの甘味処だ。ここで「マムアン・ローイゲーウ」を食べながらツアーまでの時間を潰すことにした。マンゴーの漬け物をきしめん状にスライスしてクラッシュアイスに乗せたデザートだ。強烈な甘酸っぱさが疲労に効くような気がする。1杯15B。安い!

行き方

1. BTSモーチット駅 — メジャー・ハリウッド
52番の白orピンクバス(エアコンなし)
開 4時~22時 15分間隔で運行(月~金は12分間隔) 料 8B
※ 戦勝記念塔前から166番の青白バス(エアコン付き)で行くことも可能。高速道を利用するため速いが、一部のバスは政府総合庁舎行きなので注意。19B。

2. メジャー・ハリウッド — ワット・サナム・ヌア船着場
バイクタクシー
料 20B

3. ワット・サナム・ヌア船着場 — クレット島
渡し船
開 4時半~21時半 10分間隔で運行 料 4B

タイムテーブル

10:16 BTSモーチット駅出発
10:50 パーククレット五叉路到着
10:55 バイクタクシーで出発
10:59 ワット・サナム・ヌア到着
11:15 渡し船でクレット島到着
11:50 食事
12:30 タイ舞踊ショー鑑賞
13:20 ラン・パー・スンで休憩
14:15 ボートトリップ出発
15:35 ボートトリップ終了
15:55 渡し船でクレット島出発
16:35 バイクタクシーでメジャー・ハリウッド前へ
16:45 タクシーでバンコクへ

見どころ

見どころ1 タイ&モン族伝統舞踊ショー
場 ワット・パイ・ローム前
開 土日:12時~(実際には遅れて始まる)
料 入場無料

見どころ2 クレット島ボートトリップ
場 クレット島船着場
開 0-2475-6109、0-2475-6259、0-2475-8845
開 月~金:13時発、土日:10時~17時の1時間おきに出発
料 大人60B、子供30B

食事どころ

ティアオ・イン・ナム
เตี้ยวอิงนาม
場 183 Moo 7, T. Koh Kret, A. Pak Kret, Nonthaburi
開 08-9168-3288、08-1540-9616
開 8時~17時(土日のみ営業)
料 バミートムヤム50B、大盛り60B、エビチャーハン65B

ラン・パー・スン
ร้านป่าสุน
場 31 Moo 1, T. Koh Kret, A. Pak Kret, Nonthaburi
開 08-3298-1594
開 10時~18時(土日祝のみ営業)
HP www.facebook.com/Banpasoon
料 マムアン・ローイゲーウ15B

Chit Beer
場 219/266 Baan Suan Palm, T. Koh Kret, A. Pak Kret, Nonthaburi
開 08-9799-1123
開 12時~ビールがなくなるまで(営業日はFBを参照)
HP www.facebook.com/Chitbeer
料 地ビール(小)100B

川旅を満喫 ボートトリップ

船着場に戻って、14時発の遊覧船に乗り込む。お客が揃うまで待って、14時15分頃に船が出発。船内はほぼ満席だ。広い川の中央をぐいぐいと進む遊覧船。思ったよりもスピードが速く、川風が気持ちいい!

川の両岸には高床式の木造家屋とヤシの木が並ぶ。バンコクから少し離れただけとは思えないような、のんびりとした景色だ。川の水面が空の色を反射してキラキラと光っている。

途中で土産物屋2軒とお寺1カ所に立ち寄りつつ、約1時間半かけてクレット島を一周してボートトリップは終了した。

遊覧船はまずクレット島の対岸に到着。もう降りたい人はここで降りよう。引き続き島内を観光したい人は、そのまま乗っていると、最初の乗り場で降りしてもらえらる。

まだ15時半すぎなので、クレット島で降りて再び島の東側を散策する。先ほどの「ラン・パー・スン」を過ぎてしばらく川沿いに歩くと、なにやらにぎやかなバーを発見! 「Chit Beer」、看板にはクラフトビールとある。地ビールの店か!

店主のウィットさんによると、店内で醸造・熟成した地ビールを約1年半前から提供しているそう。地ビールは全部で5種類。川を眺めながら飲み比べをしたかったけれど、あいにく満席だったので、瓶ビール3種類を買って帰った。次回は早めに行き地ビールを堪能しよう。



名物のトート・マン・プラー。揚げたてを狙って買おう



ティアオ・イン・ナム店内



ティアオ・イン・ナムのバミートムヤム(大盛り)

ボートトリップではこんな風景が堪能できる



素焼きのカップに入れて飲み物を売ってくる



チャオプラヤー川の河口へ! ラマ5世記念公園と たった4Bの船旅

バンコクの街を包み込むように流れる、母なる川・チャオプラヤー。タイ中北部・ナコンサワン県に端を發し、372kmもの長さを誇るこの川が海と出会う場所にはどんな景色が広がっているのか？ 河口近くに建つラマ5世記念公園とその周辺の見どころを巡ってみた。(編集F)

乗るバスはこちら!
20番青バス
(エアコン付き)



メークローン号内部。教室がある



渡し船から見るチャオプラヤー川。見渡す限り水面だ



純白の仏塔「プラ・サムット・ジェーディー」。右下には中華風の東屋がある



仏塔そばの船着場。川の
水が干上がっていて、泥が見えている。泥の上にはハゼがいた



ラマ5世記念公園へ
はこのソントウで



海軍近代化の父・ラマ5世の
立像。献花するタイ人多し



淡白な味わいの揚げスズキのナムプラーがけ



親子連れの猿に遭遇!



実際の兵器が展示してある



渡し船乗り場はこの
アーケードの奥



下町の未来を垣間見る

午前10時、BTSウォンウィエン・ヤイ駅を降りて、停留所に向かう。いつの間にかBTS駅に高架歩道が完成して、途中まで日陰の平坦な道を歩けるようになっていた。この辺りも発展してるのね。目指すバス停はウォンウィエン・ヤイのロータリーに向かって北上して最初の歩道橋下にある。間もなく20番のバスがやって来た。乗り込んで終点のお寺「プラ・サムット・ジェーディー」の名前を車掌に告げる。1人18B。約1時間のバス旅だ。ソムデットプラジャオ通りを南に進むが、車道で工事をしているため、軽い渋滞が続く。これは2016年開通予定の地下鉄・パープルラインか? この風景も徐々に変わっていくんだろうなあ。

白い仏塔とハゼ プラ・サムット・ジェーディー

スックサワット通りを突き当たりまで進んで、バスは左折。1kmほど走った所が終点のプラ・サムット・ジェーディーだ。これはサムットプラカンの街を建設したラマ2世が1819年に建立を指示した仏塔で、ラマ3世の代になって現在の高さに増築したものだ。サムットプラカン県の県章だ。

仏塔の脇にある船着場に出ると、チャオプラヤー川が見えてきた。暑季で干上がったのか手前の方は水がなく、泥が見えている。泥の上を2匹のハゼが歩いていた。深々と水をたたえたチャオプラヤー川にもこんな場所があったとは。そういえば、この仏塔のある場所も建立当時は小島だったらしく。変わらないように見えるこの大河も百年単位で見るとだいぶ変化してるようだ。

質実剛健なシーフード 河口の海軍レストラン

先ほどバスを降りた終点へ引き返して、今度は青いソントウに乗って「ラマ5世記念公園」(ポンプラチュン)へ。1人8B。ソントウに乗って10分も走ると、道端にヤシ葺き屋根の小屋が出てきたり、ヤシの木が生い茂っていたりと、完全に田舎の風景に変わった。やがて海軍の敷地内に入って5分ほどで終点のラマ5世記念公園へ到着した。ラマ5世(チュラロンコン大王)は海軍の近代化に力を注いだことで知られている。立像にしばし手を合わせてから、斜向かいにある海軍レストラン「サモーン・ターイ・ルア・ルアン・メークローン」へ。ここは川べりに建った食堂で、広々とした河口

の景色を眺めながらシーフードを楽しめる。イチ押し料理は「ブラー・ガボン・トート・ナムプラー(揚げスズキのナムプラーがけ)」。薄い衣で揚げてあって、ナムプラーソースも薄味。淡白なスズキの味を楽しめる一品だ。そのほかの料理も素朴な味付けで、まさに質実剛健な海兵のような料理だった。

自由に見て回れる 練習艦「メークローン号」

食後はラマ5世像の左手に置かれた軍艦へ。これは「メークローン号」といって1937年に日本は浦賀で建造された練習艦だ。当時、タイは独立を保ち続けるために海軍の近代化を推し進めていて、日本にこの練習艦や小型潜水艇をはじめ多くの艦艇を注文していたとか。メークローン号の艦内は自由に見ることができ。この日本が造った船から多くの水兵が育った結果、タイの自由と独立を守ることができたのか。ラマ5世像の向かいには海軍歴史記念公園というもあり、ここでは第二次世界大戦やベトナム戦争当時のタイ海軍の記録や当時の写真、艦載兵器の実物などが展示されている。あまりに暑すぎたため、ざっと見て退散。来たの

と同じ青いソントウに乗って再び終点まで戻った。

たった4Bの豪華な船旅 パークナムへの渡し船

終点からは青いアーケードをくぐって船着場へ。4Bを支払って渡し船に乗り込む。船着場の対岸には小島があって、チャオプラヤー川の広い水面はここからはまだ見えない。小島にうっそうと生い茂る木々のせいで、なんだかジャングルクルーズに出かけるような気分だ。ほどなく渡し船が動き出す。船が進むにつれてチャオプラヤー川本体の姿が徐々に見えてきた。「ひ、広い!」巨大な貨物船が行き交う様子はもう海と変わらない。見渡す限りの水面に心が踊る。チャオプラヤー川の河口ってこんなに広がったのか。後で調べると、この辺りは川幅がなんと約1kmもあった。地図を見れば幅が広いことは分かるけれど、このダイナミックな景色は実際に来ないと分からない。景色に見とれているうちに対岸に到着。約10分間、1人4Bの贅沢な船旅だった。対岸はサムットプラカン県のパークナム。船着場の周りの市場をざっと見学してからタクシーに乗って帰った。

行き方

1. ウォンウィエン・ヤイ — プラ・サムット・ジェーディー
20番の青バス(エアコン付き)
時 4時~22時 15分間隔で運行 料 終点まで18B
2. プラ・サムット・ジェーディー — ラマ5世記念公園
青いソントウ
時 4時~22時 15分間隔で運行 料 終点まで8B
3. プラ・サムット・ジェーディー — パークナム
渡し船
時 4時半~21時半 10分間隔で運行 料 4B

周辺地図

タイムテーブル

10:09	ウォンウィエン・ヤイ出発
10:59	プラ・サムット・ジェーディー到着 & 見学
11:30	ソントウで出発
11:58	ラマ5世記念公園到着
12:15	食事
13:20	メークローン号見学
14:00	海軍歴史記念公園見学
14:55	ソントウで出発
15:25	ソントウターミナル到着
15:30	渡し船で出発
15:45	パークナム船着場に到着
15:55	タクシーでバンコクへ

見どころ

見どころ1 プラ・サムット・ジェーディー
วัดพระสมุทรเจดีย์
場 114 Ban Chedi, Suksawat Rd., T. Pak Klong Bang Plagot, A. Phra Samut Chedi, Samut Prakan
電 0-2425-8898
時 24時間
料 入場無料

見どころ2 ラマ5世記念公園 (ポンプラチュン)
ป้อมพระจุลฑา
場 Phra Chulachimklao Fortress, Suksawat Rd., T. Lamfahpha, A. Phra Samut Chedi, Samut Prakan
電 0-2475-6109, 0-2475-6259, 0-2475-8845
時 8時~18時 無休
料 入場無料

食事どころ
サモーン・ターイ・ルア・ルアン・メークローン
สโมสรท้ายเรือหลวงแม่กลอง
場 ラマ5世記念公園と同じ
電 0-2475-6076, 08-1889-2115
時 10時~22時 無休
料 8時~18時 無休
場 340B, トムヤムクン90B (鍋入り180B), プラームック・パット・カイケム (イカと塩漬け卵の炒め物)200B